

## UAE 北部首長国の概況とビジネス機会～②ラス・アル・ハイマ首長国～

### 0. はじめに—UAE の「北部首長国」

アラブ首長国連邦（UAE）は、7つの首長国からなる連邦国家である。その構成を概観すると、首長が連邦大統領を兼ね、UAE 全体国土の8割、GDPの約7割、人口の3割（自国民では4割強）、原油生産の9割を占める**アブダビ首長国**が大きな地位を有する。次いで**ドバイ首長国**の地位が高く、首長が連邦副大統領と首相を兼ね、GDPの3割・人口の3割を占めている。「**北部首長国**」と総称されるその他5つの首長国は、あわせて残りのGDPの1割、人口の3割弱を構成している。

表①：UAE における首長国別の経済・人口規模

首長国名	首長家	面積	名目 GDP (十億 USD)	人口 (万人)	自国民人口 (万人)
アブダビ	ナヒヤーン家	67,340 km <sup>2</sup>	262 (2014)	291 (2016)	40 (2010)
ドバイ	マクトゥーム家	3,885 km <sup>2</sup>	92 (2014)	270 (2016)	17 (2010)
シャルジャ	カーシミー家	2,590 km <sup>2</sup>	31 (2014)	141 (2015)	15 (2010)
アジュマン	ヌアイミー家	259 km <sup>2</sup>	4 (2013)	50 (2017)	4 (2010)
ラス・アル・ハイマ	カーシミー家	1,684 km <sup>2</sup>	4 (2009)	35 (2015)	10 (2010)
フジャイラ	シャルキー家	1,580 km <sup>2</sup>	3 (2009)	23 (2016)	6 (2010)
ウム・アル・クワイン	ムアッラー家	720 km <sup>2</sup>	0.6 (2009)	5 (2005)	2 (2010)
<b>UAE 全体</b>	—	83,600 km <sup>2</sup>	385(2014)	1,043(2018)	95(2010)

出所：The Official Portal of the UAE Government、IMF 等より作成

注）各項目の数値の後のカッコは該当年を示す。UAE 政府の公表する統計は速報性に乏しく、現在、出所ウェブサイトを確認できる最新値を記載

また、UAE 全体における日本企業の進出状況は、2017年5月時点でジェトロ・ドバイ事務所が実施した推計によると、合計442事業所となっている。内訳は、ドバイが最も集中しており345事業所(78%)、アブダビが主に石油・ガス関連や銀行・商社等の企業を中心に73事業所(16%)が立地しており、北部首長国は合計で24事業所(5%)にとどまっている状況である。

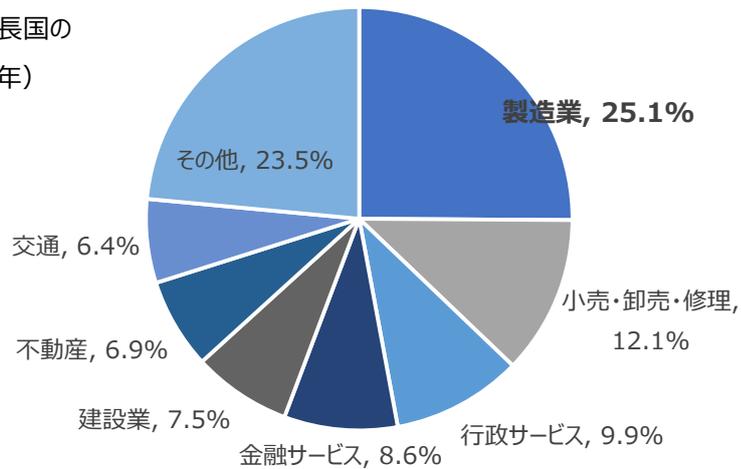
以上のように北部首長国の経済規模や、これまでの日本企業の経済活動は限定的ではあるものの、アブダビ・ドバイと比較して低廉な労働力や各首長国が推進する産業多角化政策などを活かしたビジネス機会が存在する。本シリーズではこうした北部首長国について、首長国ごとに経済概況とビジネス機会の解説を行いたい。以下、本稿では「**ラス・アル・ハイマ首長国**」に焦点を当てて解説する。

## 1. ラス・アル・ハイマ首長国の特徴—産業構造・経済動向

ラス・アル・ハイマ（Ras Al Khaimah、一般的に「RAK」とも略称される）は UAE の最北端に位置し、オマーンの飛び地であるムサンダル半島との国境に面する首長国である。面積はアブダビ、ドバイ、シャルジャに次ぐ 7 首長国中 4 位。人口及び GDP はそれらに加えてアジュマンに次ぐ 5 位であるが、全人口に占める自国民の割合が UAE の中で最も高い水準であることが特徴であり、UAE 全体値が約 1 割であるところ約 3 割の比率を有している。

かつてラス・アル・ハイマは、ペルシャ湾の貿易に従事する海運国であったが、現在では港湾開発に力を入れつつも、製造業や小売・卸業を主産業としている。実際に GDP の構成をみると、最も構成比が高いのは製造業で約 25%を占めている。製造業に次ぎ、小売・卸売り・修理が約 12%、行政が約 10%、金融サービスが約 9%、建設業が約 8%と続く。観光業の GDP 構成比は図の 2013 年時点では「その他」に包含される程度の水準であるが、RAK 政府は 2018 年 4 月に、2025 年までに 10%まで拡大させる目標を発表している。また、同じく「その他」に包含されるものの、農産業も盛んであり、ナツメヤシや野菜や果物を生産している。

図：ラス・アル・ハイマ首長国の  
GDP 構成比（2013 年）



出所：Oxford Business Group “The Report: Ras Al Khaimah 2015”

同首長国の製造業の発展は主に北部のコール・クワイル（Khor Khwair）と呼ばれる港湾・工業地帯から始まっている。コール・クワイルは市中心部の 25km 北に位置し、セメント、砂利、大理石、陶製タイルなどの様々な工場で構成され、ドバイをはじめ UAE ならびに GCC 各国の大型建設事業に多くの資材を供給してきた。1980 年代から 90 年代にかけてセメントメーカーの RAK セメント(RAK Cement)、世界最大級の窯業製品メーカーとなった RAK セラミックス（RAK Ceramics）、UAE 初の製薬会社であるジュルファ製薬（Julphar Pharmaceutical Industries/社名は RAK の歴史的な地名に由来）といった大型企業が同地にて創業した。2000 年代以降、後述するような経済特区が各地に整備され、100 か国以上から 13,000 社以上の企業が RAK にて操業している（2017 年、RAKEZ 資料）。

またラス・アル・ハイマは海と山といった自然に恵まれた環境にあり、上述の通り政府は観光業の振興に力を入れている。透明度の高い海を擁する海岸線ではホテル・リゾート開発が進んでおり、リッツカールトンやワルドルフ・アストリアといった世界的な高級ホテルも近年オープンしている。ほか主な観光資源としては、UAE 国内最高峰のジャベル・ジャイス山脈（Jabal Jais）があり、ここにはギネス・ワールド・レコーズにも認定された世界最長のジップラインが設置されている。同ジップラインは、雄大な峡谷を眼下に見晴らしながら、上空を 150 キロの高速で滑空するもので、多くのメディアに取り上げられている。このような状況のもと、2018 年 6 月には、RAK 政府がドバイからの無料シャトルバスサービスを開始し、旅行客の獲得に本腰を入れ始めている。2018 年内に同酋長国への観光客を 100 万人まで拡大することを目標に挙げている他、2025 年までに、現在は 5,500 のホテル客室数を 2 万室まで整備する計画もある。

ほか特筆すべきこととして、UAE 大統領であるアブダビのハリーフ・ビン・ザイド・アル＝ナヒヤーン首長のイニシアティブにより、2015 年に「シェイク・ハリーフ特別病院」がラス・アル・ハイマ南部に開業した。同病院が立地する場所は 5 つの北部酋長国の中央となっており、最先端の医療環境を同地国民へ提供することを目的としている。韓国のソウル大学病院（SNUH）が運営を受託している。

## 2. ラス・アル・ハイマ酋長国のビジネス環境

ラス・アル・ハイマに事業拠点を設けることの大きなメリットとして、まず事業コストが安価であることが挙げられる。一例として、ドバイの空港フリーゾーン（DAFZ）に 20 平米程度の小規模オフィスを借り、貿易会社を設立した場合、事業ライセンス料（General Trading License）に年 40,000 ディルハム（約 120 万円：1 AED = 30 円として計算）支払い、また平米あたり年間約 2,200 ディルハム程度（6.6 万円）のオフィス賃料が別途発生するが、下表のラス・アル・ハイマ・エコノミックゾーンでは、同ライセンス料とフリーアドレススタイルのオフィス使用料込みで年間 21,500 ディルハム（64.5 万円）と、会社の設立・維持コストが大変安価である。また、2018 年には現時点で酋長国独自の労働許可証として、フリーランス・ライセンスの発行を開始し、多様なワークスタイルを取ることが可能となっている。

「RAKEZ」は、ラス・アル・ハイマ自由貿易地域（Ras Al Khaimah Free Trade Zone）とラス・アル・ハイマ投資庁（Ras Al Khaimah Investment Authority, RAKIA）によって 2017 年に設立された。前者が司る外国企業による 100%出資が可能な「オフショア」と、後者が司る内国企業として設立する「オンショア」でのビジネスを併行してワンストップで検討できる仕組みとなっていることが特徴だ。UAE 内ではドバイとアブダビにビジネスセンターを、海外にはヨーロッパ（ドイツ・ケルン）、トルコ（イスタンブール）、インド（ムンバイ）に窓口を持ち、企業誘致活動を行っている。RAKEZ は 3 つの工業地帯と、最新鋭のオフィス環境を提供している RAKEZ メディアゾーンと RAKEZ ビジネスゾーン、既に複数の国際学術機関が立地する RAKEZ アカデミックゾーンの計 6 つのエリアから構成されている。

表② RAKEZ の各区画の特徴と主な進出事例 (出所：RAKEZ および各社ウェブサイトより作成)

区画名	特徴・主な操業企業
アル・ハムラ・ インダストリアルゾーン (Al Hamra Industrial Zone)	<p>面積 28.2 百万㎡。RAK 南部に位置する RAKEZ 最大の工業地帯で、多くの国際企業が工場を設置する様々な業種向けのエリア。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダブル(Dabur):インド日用品大手。シャンプーや歯磨き粉等パーソナルケア商品の生産工場・R&amp;D 拠点。2016 年“RAKEZ エクセレンス”受賞。</li> <li>・マヒンドラ(Mahindra):印自動車大手。装甲車工場 5 千㎡。</li> <li>・サヴェールガラス(Saverglass)、アルク(Arc International) : 両社ともフランスのガラス製テーブルウェア大手で製造拠点設置。</li> <li>・ファルコン・テクノロジー(Falcon Technologies International): UAE の DVD 等メディア製造。スイスの投資会社との合併で 2005 年に工場稼働。</li> <li>・竹中製作所(大阪):2016 年進出。オイル&amp;ガスの UAE 国営企業を主たる顧客とし、特殊防錆塗装事業を現地展開。</li> <li>・ほか、JBF (インド、ポリエステル生産)、ザーミル鉄鋼(Zamil Steel/サウジアラビア)、ELITE (UAE、アルミ押出成型) 等。</li> </ul>
アル・ゲイル・ インダストリアルゾーン (Al Ghail Industrial Zone)	<p>面積 9.1 百万㎡。内陸部にあり、大規模な工場の投資誘致を行っている。2010 年に UAE 初の自動車工場が設置され(バス工場は GCC 初)、2018 年には部品工場も開設する等、自動車産業ハブ化も試みられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アショク・レイランド(Ashok Layland): 印大手自動車メーカー。10 万㎡、バス等大型車 6,000 台/年の生産能力、1,000 人の雇用。</li> <li>・オート・バス・レイザー(Auto Bus Laser): インド系事業者が 2 万㎡を取得、アショク社工場への部品供給をメインとして現地設立された。</li> <li>・Pos-GSFC : 韓国鉄鋼大手 POSCO 子会社。GCC 向け鉄鋼製品組み立て、トレーディング。従業員 120 名。</li> <li>・アジア・フィブラス(Asian Fibres) : UAE 企業。使用済みペットボトルの処理工場を 2015 年開設、600 人の雇用計画。</li> </ul>
アル・フライラ・ インダストリアルゾーン (Al Hulaila Industrial Zone)	<p>1.3 百万㎡。上述の北部工業地帯コール・クワイルに隣接する、従来製造業が盛んなエリア。先 2 つと比較して重工業がメインで、下述のサクル港等が隣接し、物流の利便の高さを謳っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本メッシュ工業(大阪):2007 年進出。海水淡水化プラント、石油精製所、LNG プラント等で使用される部材を現地生産。</li> <li>・ほか、化学品、金属加工メーカー等。</li> </ul>
RAKEZ メディアゾーン	0.2 百万㎡。メディア、アニメーション、音楽、エンターテインメント関連のスタートアップ企業になどが主に入居している。
RAKEZ ビジネスゾーン	850 席スタートアップ及び SME 向けにシェアオフィスや小規模オフィスを提供。コンサルティング会社や商社等が入居している。

RAKEZ アカデミックゾーン	4 百万㎡※市内に点在。スターリング大(スコットランド、2018 年 9 月開校)、 ウェスト・ロンドン大(英国)、連邦工科大ローザンヌ校(EPFL)、スイス・ビズネ ススクール(以上スイス)、ソハド大(パキスタン)、ビルラ工科大(インド)等。
--------------------	--

港湾については、「RAK Ports」という総称で合計 5 つの港がサクル港庁 (Saqr Port Authority) に  
 よって運営されている。その中の一つであるサクル港は、バルクのドライカーゴの取扱量が MENA 地域最  
 大で年間約 6000 万トンを取り扱っており、2020 年の国際博覧会を控え大開発の進むドバイの建設  
 業をはじめ、地域のサプライチェーンの要衝となっている。RAK マリタイム・シティ(RAK Maritime City,  
 RAKMC)は港湾隣接地を 1 区画 2 万㎡の区画でリースしており、港湾付近で製造拠点をもちたい企  
 業にとっては理想的な環境である。その他、オイル&ガス事業者の海洋側の拠点としての設備を備えるコ  
 ール港 (Khor Port)、生物や通常のカーゴを取り扱っているアル・ジール港 (Al Jeer Port)、12 の  
 ドライドックが有り、修理や給油のサービスも提供しているアル・ジャジーラ港 (Al Jazeera Port) が存  
 在している。アル・ジール港は海洋上の開発プロジェクトにおいて部材のストックヤードとして重要な役割を  
 果たしており、2015 年から韓国のヒュンダイ建設がアブダビ近郊において埋め立て地を建設しているプロ  
 ジェクトにおいても同港をストックヤードとして活用している。

空港については、ラス・アル・ハイマ国際空港が首長国南部に立地する。シャルジャを拠点にするローコス  
 トキャリアのエア・アラビヤは、同港を自社のハブ空港の一つとしており、エジプトのカイロ、パキスタンのイスラ  
 マバード・ラホール・ペシャワール、サウジアラビアのジェッダの計 6 都市へ国際線が就航している。

### 3. ラス・アル・ハイマ首長国のビジネス機会

ここまでみてきた通り、ラス・アル・ハイマには製造業の産業基盤がある程度整備されており、拠点を設置  
 する魅力を有する。実際に日本の中小企業で製造業が 2 社、既に同地へ進出している。

工業用特殊金網メーカーである**日本メッシュ工業株式会社**は、ラス・アル・ハイマに 2007 年に現地法  
 人及び製造拠点を設立している。同社は超低温や超高温などの厳しい条件の中で使用される食品搬  
 送用コンベア装置のメッシュベルトをはじめ、石油精製やガス化学などのミスト（微小液相粒子）を分離  
 除去するためのメッシュデミスター、各種ろ過用フィルターなどの特殊な製品を製造販売しており、中東で  
 の売り上げが全体の 5 割を超える。現地法人及び製造拠点を開設することで、製品の運送費の低減だ  
 けでなく、きめ細かいメンテナンスの提案も実施できるようになっている。**株式会社竹中製作所**は、日本の  
 パートナーである株式会社 GSI クレオスならびにラス・アル・ハイマの地元企業との 3 社合併にて、2016  
 年に TAKENAKA MIDDLE EAST LLC を設立。酷暑・高湿度・砂塵などの環境に耐えうる特殊防錆  
 塗料を、ボルト・ナットに代表される締結部材やその周辺部材に施し、オイル&ガス分野プラントや海水淡  
 水化プラント等の国営企業をターゲットとして製造販売を行っている。現地から増え続ける引き合いや納  
 期短縮の要求に対応するため、フリーゾーン外での事業活動を認められる UAE 内国企業として設立して

おり、同社が顧客層との直接取引や GCC 諸国への営業活動も容易とした。

また RAK 政府が観光業を核たる産業の一つとして育成していく方針を示しているなか、不動産開発や新たなホテル、モールの誘致が積極的に行われている。2013 年にオープンした 270 万㎡の人口造成島「マルジャン・アイランド(Marjan Island)」には既に複数の高級リゾートが営業し、盛況となっている。加えて現地大手ディベロッパーの RAK プロパティーズは、2017 年にフラッグシップとして「ハヤット・アイランド(Hayat Island)」を発表した。同社が手掛ける新興開発エリア「ミーナ・アル・アラブ(Mina Al Arab)」における 40 万㎡の人口造成島で、インター・コンチネンタルとアナンタラの 2 つのラグジュアリーホテル、公共施設や商業施設、住宅等の複合リゾートとして開発する計画だ。こうしたプロジェクトが進行することで、各施設へのテナント出店・各種サービス等の消費者向けビジネス機会も拡大するだろう。最後に、現地の消費市場を伺ううえで目安となる、現在の主要なショッピングモールの情報を下表にて取りまとめる。

表③ ラス・アル・ハイマの主要なショッピングモール（出所：各社ウェブサイト等より作成）

名称	概要
マナール・モール(Manar Mall)	27,000 ㎡、120 店舗、2000 年にオープン。近日中に大規模な拡張工事が終了予定で、完成後には現在の倍の敷地規模となる。
アル・ナアイーム・モール (Al Naeem Mall)	59,922 ㎡、約 87 店舗、2009 年にオープンした中流層以上をターゲットにしたモール。映画館などのエンターテインメント施設もある。
アル・ハムラ・モール (Al Hamra Mall)	45,000 ㎡、約 120 店舗、2010 年にオープンした中流層以上をターゲットにしたモール。RAK 首長がオーナー。映画館やレストラン、子ども向け施設など、エンターテインメント性が比較的高い。
ラック・モール (RAK Mall)	36,000 ㎡、2012 年オープン。インド系のルル・ハイパーマーケットが入居、日用品や食料品等のショッピングに適している中型モール。
マイ・シティ・センター・アルダナ (My City Center Al Dhait)	5,494 ㎡、30 店舗、2018 年にオープンした最新のモール。1,178 ㎡の広さのカルフル・ハイパーマーケットも入居。中東諸国に数多くのモールを展開するドバイ財閥アル・フタイムが経営する。

以上

UAE北部首長国の概況とビジネス機会～②ラス・アル・ハイマ首長国～（2018年10月作成）

UAEプラットフォーム・コーディネーター：ksn Research & Consulting, GEN Events LLC

日本貿易振興機構（JETRO）ドバイ事務所

35th Floor, #3503 - #3506, The One Tower, Barsha Heights, TECOM, Dubai, U.A.E.

【おことわり】本資料は「UAE 中小企業海外展開現地支援プラットフォーム事業」の一環として作成したものです。提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご利用下さい。JETROではできるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本資料で提供した内容に関連して不利益等を被るような事態が生じたとしても、一切の責任を負いかねますので、予めご了承下さい。

# ラス・アル・ハイマ首長国

基本情報

首長家	カーシミー家
面積	1,684km <sup>2</sup>
名目GDP	40億USD (2009)
人口	35万人 (2015)
自国民人口	10万人 (2010)

